

氏名(本籍)	わた なべ まさ こ	渡 辺 雅 子 (東 京 都)
学位の種類	博 士	(文 学)
学位記番号	博 乙 第 1665 号	
学位授与年月日	平成12年11月30日	
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当	
審査研究科	歴史・人類学研究科	
学位論文題目	ブラジルにおける日系新宗教の展開	
主 査	筑波大学教授	文学博士 大 濱 徹 也
副 査	筑波大学教授	文学博士 池 田 元
副 査	筑波大学教授	博士(文学) 古 家 信 平
副 査	筑波大学教授	博士(社会学) 駒 井 洋

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、ブラジルにおける日系人への新宗教の布教活動につき、大本教、金光教、立正佼成会、世界救世教、創価学会、霊友会、稲荷会の存在形態を個別具体的に検証することで、教会の形成と信仰の実態を解析しようとした序章、4部9章、終章からなる作品である。

序章「本研究の目的・視点・方法」は、ブラジルで布教された日本の新宗教が日系人の社会にとどまるものと、非日系人社会にまで展開していくものがあることを指摘し、新宗教の展開過程にみられる差異を検討するなかにより異文化布教がもつ歴史的個性を考察しようとする意図を述べたものである。そこでは、主として、関係者の聞き取りをもとに、組織形態と布教形態を軸に新宗教を分類し、ブラジルにおける日系新宗教が負わされた課題を明らかにしようとする問題意識が提示されている。

I部「ブラジルの日系人・宗教文化・日系宗教」は、II部～IV部で取り上げる新宗教の個別的展開にかかわる背景を説いたもので、1章「ブラジルの日本移民・日系社会・デカセギ」で1908年からはじまる移民の歴史をブラジル社会に位置づけ、日系社会に占める新宗教の位置づけを歴史的に問い質し、1980年代後半からの日本へのデカセギが生んだ問題を明らかにしている。

2章「ブラジルの宗教文化と日系宗教の展開」は、新宗教のみならず、仏教・神道をもふくめた日系宗教の戦前・戦後にわたる布教を概観し、ブラジルの宗教文化をカトリック、インディオの宗教、黒人の部族宗教が習合した心霊主義にみられる奇跡信仰・憑霊信仰のあり方などを紹介したものである。

II部「日系人主体の日系新宗教」では、ブラジルにおける大本教、金光教、立正佼成会の具体相をあきらかにする。3章「大本—非日系人布教から日系人中心の宗教への移行—」は、大本教の戦前・戦後の展開を概観し、1960年代に祈禱的活動によって非日系人をひきつけたが定着しないまま、日本の本部方針による祭式を強調するなかにより、日系人のエスニック・チャーチとなり、閉じた空間を形成していく姿を明らかにしている。

4章「金光教—宗教者の自己形成と教会形成—」は、1964年の布教開始からの足跡を、ブリグレイ教会の展開にあとづけ、日系人・非日系人の棲みわけから、観光光殺の場として日系社会のエスニック・チャーチとなっていく相貌を描き出し、教会が強く初代教会長の人格影響下にあったことを指摘している。

5章「立正佼成会—戦後移民のエスニックチャーチからの脱皮の模索—」は、1950年代の戦後移民とともに布教がはじまった背景を具体的に問い質し、1990年代に教勢が行きづまり、非日系人を視野にいれた布教への取り

組みがなされている現況を問い、ブラジル文化に相応する活動の諸相を具体的に紹介している。

Ⅲ部「日系新宗教の非日系人布教」は、非日系人に布教を展開した世界救世教・創価学会・霊友会を取りあげたものである。6章「世界救世教－浄霊の「奇跡」と育成システム－」は、非日系人布教で大きく伸張した世界救世教の展開を、浄霊というブラジル人気質に相応する宗教実践の具体相として明らかにし、ブラジル聖地の建設をめざす献金活動を推進、信徒訓練をなし、浄霊をふまえた奇跡信仰によって異文化布教の場を開き、ブラジルの都市新中間層を把握していく状況を描いている。

7章「創価学会－折伏から文化運動への傾斜とその要因－」は、1960年代の池田大作のブラジル訪問で入信した戦後移民を基盤にした折伏活動から、ブラジル社会の認知を得るための文化活動へと転回することで、「現証」を重視する布教で非日系人社会に場をきづき、文化団体への相貌をおびながら、座談会・個人指導・家庭訪問という指導システムで非日系人会員の定着をはかっていく実態を、カトリック社会との対応をふまえて検証している。

8章「霊友会－先祖供養と根性直ブラジルの展開－」は、日系人主体の布教から1990年代のデカセギによる組織の打撃を克服すべく、非日系人布教へと転回し、非日系人に相応させた先祖供養の教義と「根性直し」を説くことで、教会組織を拡充していく実態を解明したものである。

Ⅳ部「ブラジルで発生した日系新宗教」は、伏見稲荷・石切神社・柳谷観念の系譜をひく霊能者がブラジルで創始した稲荷会をとりあげたものである。9章「稲荷会－ブラジルの憑霊の文化と日本の民俗宗教－」は、野々垣こちゑ・山根イトノの姉妹が母山根トミを初代教主にブラジルで創唱したもので、霊能による「人助け」の業をなし、不幸の除祓をマクンバなどブラジルの的に解釈するなど、日本の神々を軸にしなが、ブラジルのエスピリティズムにひきよせることで、ブラジルの宗教文化に適応していく歴史の変容を説いている。

終章「ブラジルにおける日系新宗教の展開とその規定要因」は、日系人が創唱した新宗教とはいえ、組織形態、布教形態、布教開始時期をはじめ、母教団から受けついで教義・シンボル・実践といった宗教財をはじめ、日本の本部教団との関係において各々に多様な在り方を負わされていることを確認し、組織形態（おやく型－中央集権型）と布教形態（教師中心奉公型－信徒中心万人布教者型）の関係軸を設定し、日系新宗教がブラジルという異文化社会に布教する上で解決すべき課題を検討したものである。そこでは、拡大・適応・定着・組織の在り方をめぐり、ブラジルの宗教文化との関係を問い質し、ブラジル社会の現代化に対応した課題解決への提言をこころみ、デカセギ現象をふまえた日系人主体の新宗教が非日系人布教に新たな場を見いだす時であることを指摘し、本論文の総括をしている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、ブラジルに展開した日本の新宗教が奏でた相貌につき、ブラジル日系人社会の歴史的形成をふまえ、日系人のエスニック・チャーチとしての性格を強く負わされている大本教・金光教・立正佼正会、非日系人布教に活路を見出した世界救世教・創価学会・霊友会、ブラジルで生まれた稲荷会につき、布教活動の足跡をあとづけ、個別具体的に教会員の存在形態と信仰の様相を検証した意欲的な作品である。

その第1は、ブラジルに展開した日本の新宗教のうち、7教団について、11年間にわたる個別教団の実態調査をふまえた丁寧な事例研究であること。

第2は、日系新宗教が日系人社会の日本人意識を培養する器として作用する時、地域のなかに大きな場をしめうることを具体的な諸行事をふまえて提示したこと。

第3は、日系新宗教が非日系社会たるブラジル文化に根をおろす作法につき、奇跡信仰をはじめ、マクンバやエスピリティズムにひきよせた解釈が有効に働くことを具体的事例で検証しようとしていること。

本論文は、ブラジルにおける日系新宗教の布教実態を、各教団の個別調査をふまえ、具体的に提示しようとし

た作品として、今後の研究の礎石となるものであるが、若干の問題も残されている。第1は、多くの調査資料が布教者をはじめとする教団の指導者の言説と記録に強く規定されているため、一般信者の思いを視る眼においてやや弱いこと。第2は、多くの写真が提示している礼拝を営む聖なる空間の構成をはじめ、儀礼のもちかたなどにつき、教理とかかわらせて読みとることへの眼くばりが望まれることなどである。

本論文は、これらの課題が残されているものの、日系移民の入植にはじまるブラジルの日系新宗教が展開した足跡を具体的に検証し、布教状の課題を提示しようとした作品として、学界に大きな地歩を占めるものと認められる。

よって、著者は、博士（文学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。